



運搬



製錬

環境
自然23
まいん

かどいしはら

角石原

明治期の角石原の焼鉱窯



別子銅山記念館所蔵

かどいしはら
角石原

は、銅山峰^{どうざんみね}から領北^{れいほく}側(新居浜側)、海拔約1,100メートルに位置します。

明治13年(1880)に完成した牛車道^{ぎゅうしゃみち}の中継所ができたことにより発展しました。

明治19年に鉱石を焼く焼鉱窯^{やきがま}が完成し、同時期に第一通洞(北口)が貫通

てんねんこうしん
天然更新
山は旧^{もと}の姿に

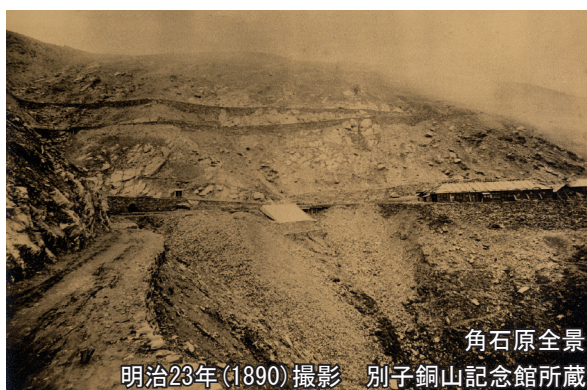
することで、物資運搬の地としての役割が大きくなりました。

明治26年に別子鉱山鉄道上部線(通称:上部鉄道)の発着駅(角石原停車場)が設けられ、角石原はその重要性が増すこととなります。

現在では、その駅舎跡は銅山峰ヒュッテとして銅山を訪れる人々のオアシスとなっています。

やますそ
山裾を縫う
ぎゅうしゃみち
牛車道と
だいいちつどう
第一通洞北口
が見える。

右端には事務所があり、明治26年に角石原駅となった。

角石原全景
明治23年(1890)撮影 別子銅山記念館所蔵上部鉄道の角石原停車場
明治31年(1898)撮影 別子銅山記念館所蔵

アカモノ

は、高さ10~15センチメートルの常緑の高山性植物で、銅山イチゴとも呼ばれています。花は5月下旬頃、7月中頃には赤いイチゴに似た実を付けます。角石原はその群生地でもあります。実はジャムにしたりジュースにして食べることができます。

上部鉄道跡より
銅山峰ヒュッテを望む

アカモノ

ふれあい めぐりあい

やまもり
山守の人いとう たまお
伊藤 玉男いとう たまお
伊藤 玉男

さんは、銅山峰ヒュッテのご主人をされ、別子銅山の自然保護員として長年山を守られてきました。

登山道の整備を初め、植物に名札を付けられるなど、伊藤さんの細やかな心遣いが別子の山のあちこちに見ることができ、登山者を楽しませてくれます。また、本も数多くご執筆されています。

平成16年故人となりました。

